

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774501155		
法人名	もみの木有限会社		
事業所名	もみの木のいえ		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型生活介護		
所在地	泉佐野市湊2丁目1-32 泉州ビル2階		
自己評価作成日	令和5年3月9日	評価結果市町村受理日	令和5年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族様、入居者様の意向を聞きできる限り個別性をもった生活を行う様に心がけている。生活の中に機能訓練の体操や提携している鍼灸治療院のセラピストからの拘縮予防や機能低下を目的にしたマッサージやリハビリを行う事で身体状況の低下防止にも努めている。コロナ下であったがコロナの動向に注視しながら、可能な限り、外出や面会を行うように努めている。また、西田メディカルグループの傘下となった事で、同じグループ内のデイサービスなどの行事に参加するなど、今まで出来なかった事にも勢力的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2022年3月に医療法人に経営母体に移り、2023年3月には場所も移転しました。「明るく・楽しく・元氣よく」の理念の実践により、利用者の表情は明るく、家族からも「面会に行くたびに笑顔が増える」と喜ばれています。環境が変わった移転後も、利用者が落ち着いて生活ができたのは培われた「職員との馴染みの関係」によるものです。日々の暮らしの中に「毎日の関わり大切さ」を学び、日常のケアに活かしています。母体の医療法人との連携は、利用者・家族、そして職員の大きな信頼と安心感を高めました。移転後約1ヶ月ですが、利用者に居心地よく感じてもらう職員の工夫をあちこちに見ることができます。今後、地域密着型施設の特性を活かした取り組みを目指していく考えで、現在、関係事業者・有志でオレンジカフェを実施しています。管理者は、市内の認知症ケア等の課題を他の事業所とも力を合わせて考えていこうと、地域包括ケアシステムの実現を目指しています。職員の頑張りに労いと感謝を表す管理者の下に丸となって支える利用者の暮らしがここにはあります。リビングから聞こえてくる笑い声や会話はいつも利用者が中心となっているグループホームです。

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JlgvosvoCd=2774501155-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和5年3月28日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	もみの木のいえとしてあるべき姿を共有し、その姿を目指しながら職員一人一人が意見を出し合い、快適な環境を作れるように努めている。	「明るく・楽しく・元気よく」を理念に掲げ、職員間で共有し実践しています。鍼灸師による「いろは体操」は利用者の楽しみのひとつとなり、ホームに訪れる人も元気になるほどの利用者の笑顔があります。家族からも「面会に行くたびに笑顔が増える」と喜ばれています。	移転を機会に、理念の具体化のための目標を定期的に考え、取り組まれてはいるかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や事業所のイベント、町内のイベントにも相互に参加し、利用者様は地域の方々と交流させていただいていたが、新型コロナ防止等により活動は減少した。	地域との関係作りは、今後積極的に取り組んでいく考えです。現在コープの事業所で、地域包括支援センター・グループホーム・デイサービスなどの関係団体や鍼灸師、何でも屋などの有志が集まりオレンジカフェを開催しています。管理者は、市内の認知症ケア等の課題を他の事業所とも力を合わせて考えていこうと、地域包括ケアシステムの実現を目指しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェの活動を通して地域貢献を行う。コロナの影響で活動が規制を受けることはあった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、活動報告、認知症や精神面の専門医への受診や薬の良し悪し、参加者様の経験談も伺わせていただくことも増えました。	利用者家族、町内会副会長・民生委員・地域包括支援センター職員・市役所職員等の参加で開催しています。会議では、サービスや行事の報告を行い、参加者との質疑応答及び意見交換を通じてサービスの質の向上・確保に活かしています。利用者の暮らしぶりをスライドショーで披露する工夫は、出席者に「活動の様子がよくわかる」と好評です。参加者の中から、認知症について知りたいと声があがっています。	

己	自部外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターを中心に、地域の独居高齢者についての情報をいただきながら、もみの木のいえにて生活をしていただく為に密に連絡を取りながら、協力させていただいている。	ホームの移転に関しては、何かと市に相談して進めました。管理者は、市に相談しながら進めることができたことに感謝しています。今後も地域密着型事業所の特性を活かした取り組みを検討していきます。生活保護の利用者に関する相談においても市の生活福祉課との連携を密にしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、何が身体拘束になるのかを、研修等を通じてだけでなく、場面場面において、管理者より職員に伝えるようにしている。	身体拘束等の適正化のための指針を作成し、身体拘束等適正化対策委員会を毎月開催しています。事故発生又は再発防止に関する研修も実施し、身体拘束防止に役立てています。エレベーターは自由に乗り降りできませんが、閉塞感を感じさせないように、外出の機会を多くつくるように努めています。管理者は、職員のストレスにも配慮し、休憩をしっかりとるなど配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待になるのかを理解してもらうだけでなく、利用者様の入居理由にも虐待事例があることも伝えながら、もみの木のいえで虐待を起こさないよう取り組んでいる。また利用者様からの暴力等についても検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様一人一人の生活環境、金銭状況、家族関係、人間関係などを伝えながら、面会拒否等のケースもあり得ることなど、状況に応じて伝えながら支援させてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでに、ご家族を含む関係者の方々に説明をするように努めている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族からの意見を、会議等を通じて職員とも共有し、反映させてもらえるように取り組んでいる。	ホームの移転前の内覧会では、家族から「安心しました」との声が聞けました。コロナ禍で何かと制限が続いていましたが、今後は個室での面会を始めることにしました。管理者は、コロナ禍の面会制限の中で、家族との関係の大切さを学び、悔いのないよう会えるようにしたいと考えています。毎月の請求書には、利用者の様子等を知らせる便りを同封しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務中において出た意見を会議等を通じて検討し、改善するべきところは改善し、反映できるように努めている。	毎月の会議で職員は意見を出し合っています。会議のほかにも日常的に職員の意見や要望を聞いています。ホーム内のあちらこちらに見られる利用者の居心地に配慮した工夫からも、職員の主体性尊重の具合をうかがうことができます。管理者や主任は、職員一人ひとりの声を拾うことを心がけています。管理者は職員の頑張りに労いと感謝を表しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、個別に職員と話し合う機会を設けたり、処遇改善加算の説明時においても、もみの木のいえの給与体系がどのように設定しているのかも伝えたりしながら、快適な職場環境を作れるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに必要な研修をを通して全職員が向上していけるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種連携会議への参加。オレンジカフェ、ZOOM等を通じて交流を深めている。		

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15				○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、話を聞きながら思いを確認して、職員内でも情報を共有し、安心して頂ける様に努めている。			
16				○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して、困られている事を伺いながら、体験入居等を通じて、もみの木のいえが出来ることをお伝えしながら、安心して頂けるように努めている。			
17				○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に起こりうる可能性をお伝えしながら、もみの木のいえでの生活が難しい場合も想定した上で、その際に検討すべきサービスをお伝えしたり、最終的にそのサービスを利用するまで支援させていただくこともある。			
18				○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、自然な形で声をかけながら、協力してもらえるように取り組んだり、利用者様への見守りを他の利用者様をお願いするなど、みんなで支え合えるような関係を築いている。			
19				○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じてご家族様に連絡し協力してもらいながら、利用者様に安心してもらえるように取り組んでいる。			

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に来て頂けるように連絡をとり自宅付近までご一緒させてもらったりしながら、話を聞かせてもらえるように取り組んでいる。	職員は、これまでの馴染みの関係を継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。コロナ禍で友人・知人との面会が制限されていますが、正月の外泊や、墓参りに行った利用者がいます。パン職人だった利用者は、誕生会のケーキ作りで、昔取った杵柄を發揮しています。移転後、環境が変わっても利用者が落ち着いた生活ができたのは培われた「職員との馴染みの関係」によるもので、毎日の関わりの大切さを学び、日常のケアに活かしています。					
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席の配置など、利用者同士の関係が良好になるように検討し、また相互に支え合える環境を作れるように努めている。						
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な連絡を取っている。また事務的な作業においても、ご家族が必要とする情報などがあれば、積極的にお知らせできるように努めている。						
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント									
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの言葉やスタッフなどからの申し送りを受け、本人の希望にそえるよう対応している。	職員は、利用者寄り添い、コミュニケーションの中で気づくことを大切にし、ケアにあたっています。管理者は職員に「利用者の変化を見て欲しい」と伝えていますが、日常の関わりの中での気づきや発見は、毎日の支援経過に記録し、職員間で共有しています。利用者の言葉や表情を詳しく書いた毎日の記録は、その場面が目につく内容となっています。					
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や人格など把握に努めている。(家族やスタッフ等の聞き取りもしている)						

己 自部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の様子やスタッフからの気づき、変化などを聞き、確認現状把握に努めている。			
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じ家族に相談、日々生じたニーズに対してはアイデアをもちより対応している。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。基本は6ヶ月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直しています。モニタリングは見直し前に実施しています。管理者は、介護計画の内容の充実が課題ととらえ、その人らしい介護計画作成に向けて工夫していく考えです。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア、本人様の様子見て介護計画を検討している。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ニーズに対応していく様、検討しながらケアにあたっている。			
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、現在は地域などの交流がないが祭りごとなど参加するように努めている。			

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		主治医・家族・スタッフなど相談・検討し、適切な医療を受けられるよう支援している。	連携医療期間による訪問診療は月2回、訪問看護は週2回です。看護師は利用者の体調や表情なども観察記録し情報提供しています。入居前のかかりつけ医への受診も可能です。歯科医の往診もあります。主治医とは24時間連絡可能で安心です。連携の医師は利用者から大きな信頼があり、医師の訪問を心待ちにしている利用者もいます。また、母体の医療法人との連携は、利用者・家族、そして職員の大きな信頼と安心感に繋がっています。職員は申し送り帳を通して、利用者の支援内容や体調を共有し、利用者についた支援に繋がっています。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		情報や気づき・変化など報告・相談などスタッフ間で行い看護師や医師に相談する。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている		病院など情報交換している、退院にそなえ意見交換や対応を考える。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		家族・医療関係者と検討をしてチームケアをしている。終末に向けその方らしい最期を過ごして頂けるよう支援を行う。	「重度化や看取りにおける指針」を基に、日々利用者に目を向け、職員一人ひとりが声を上げ、利用者の思いを大切にして支援に努めています。看取りはしていませんが、重度化時には主治医の指導の下、利用者や家族に意向確認をし、希望があれば連携機関の、老人ホームへの入所も調整しています。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		緊急時の対応に関してはマニュアルを作成し研修を行っている。				

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時計画を策定。また、運営推進会議を通じて地域の協力も打診している。	避難訓練計画書を消防署に提出し、自主避難訓練を実施、行動の様子を記録して写真と共に残しています。避難器具を設置した居室もあります。非常災害対策計画書を作成し発生時のマニュアルや対応手順、利用者ごとのキーパーソンの連絡先を整備し文書化しています。「避難確保計画書」を作成し泉佐野市に提出しています。備品備蓄品も確保、倉庫に一括保管しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには注意をしている。親しみなどをこめて言葉づかいを変えることもある。	個人の人格やプライバシーを尊重し、家族目線で日々支援しています。厚生労働省より発信される動画共有サイトで研修し、振り返りもしています。管理者は不適切な言動が生じないように、コンプライアンスの徹底に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している	希望があれば散歩や庭に出たりなどしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡をみる習慣があり、身なりをみて頂く。必要に応じ散髪など行う。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的ではないが、おやつ作りや、料理作りに参加して頂ける機会を作る。	朝食は、個人の生活を尊重する為に利用者の起床時間に合わせて個別に提供しています。昼食、夕食は、栄養やカロリー計算をした副菜が業者より届きますが、白飯、汁物は職員が調理しています。日曜日は利用者の好みの物を職員が調理し、希望でピザを頼むこともあります。誕生会には、元パン職人の利用者の手によるケーキで祝ったりもします。利用者はできることを手伝い、「楽しく食べることができる」を大切に支援に努めています。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材等の購入を変更し、一部調理済み食材を導入した。また嚥下困難な利用者についてもやわらか食を導入した。食事・水分量を確認し、飲食物を提供している。低栄養の方にはエンシュアなどで補っている		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	モーニングケア・ナイトケアは口腔ケア実施している。定期的な歯科往診にて口腔内の状態を確認して頂いている。		
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄ができる様取り組んでいる。	排泄パターンを把握し、さりげなく声掛けしてトイレ誘導しています。自立排泄可能な利用者も多く、職員は見守りながら支援しています。トイレは、介護用突っ張り棒や手摺りを設置し安心して使用することができます。夜間は紙パンツやおむつを着用したり、ポータブルトイレを使用する等、利用者に応じた支援をしています。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事量の把握に努め、飲食物提供している。寝たきり防止や一人ひとり便薬の調整を行い予防に努めている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日に拒否されても別日を設けている。曜日の決定はない。個々に沿った支援を行っています。	入浴は週2回ですが、希望があれば柔軟に対応しています。車椅子の利用者はシャワー浴で支援し、自力で洗髪する利用者には職員が見守ります。浴室は家庭的で、床面は滑り止め仕様が施されています。介護用突っ張り棒や多くの手摺りが付けられ安心、安全に入浴することができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には寄り添って話を聞いたり、水分を摂って頂いたり、入眠の促しなど行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更、追加処方などあれば都度、目的や用法など申し送り全員把握するよう努めている。変化があればDrや薬剤師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人役割や楽しみをもって頂けるよう家事や園芸やおやつクッキングや行事など行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前は外出支援など行っていたが、現在は、コロナ禍で外出等ひかえている。周辺の散歩などは希望により実施している。	外出自粛が続く中、下肢筋力の低下予防の為、ラジオ体操や、感染対策をして周辺の散歩をしています。童謡、懐メロも楽しみ、特に鍼灸師による「いろは体操」では笑い声が絶えません。マグロ解体ショーを実施、子供だんじりなど、地域の行事にも参加しています。日常の生活の様子を写真で送り、家族から喜ばれています。「支援経過記録表」を個別に作成し機能訓練やお手伝い等を記録して共有し、より良い支援に繋がっています。	周辺の散歩等で外出の機会がありますが、今後はより外出の機会を増やし、閉塞感のない暮らしになることが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身での所持は難しい為、買い物の楽しさを味わって頂いている。		

己	自	部	外	項目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51				○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様との電話での会話ができるよう対応している。			
52	(19)			○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節をわかって頂けるよう行事の際は装飾している。時々、壁面など作りイメージチェンジしている。	広い駐車場を通り抜け、扉を開けると、レンガ積みを模した壁紙と砂地をイメージした通路があり玄関へと続きます。新居らしく、真新しいホームの看板が掲げられ、お祝いの花が届いています。フロアはオフホワイトの壁で明るく清潔感があります。楕円形のテーブルを配置、職員手作りの和の飾り物で温かい雰囲気作りをしています。施設を感じさせないようこの職員の意見を取り入れた空間作りです。段ボール箱が置かれ引っ越しの余韻が残る中、より良い共有空間作りを目指しています。		
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方と過ごしたり、TVをみたり、一人ですごしたいなどその方に合った席を設けている。			
54	(20)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族・スタッフと相談し使っていたものなど持参して頂き、安全も確保しながら居室作りしている。	表札は大きく表示し分かりやすくしています。ホームでは、ベッド、エアコンが用意され、利用者は使い慣れたタンスや小物を持ち込みます。ハンガーに洋服をかけた、思い出のミシンや編み棒を持ち込む利用者もいます。窓から望む風景には季節の移ろいを感じることができ、居心地よく暮らせる居室です。		
55				○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができる様に必要な方に居室にポータブルを置いたり、食事の下膳などご自身でして頂ける様努めている。			